

平成27年度 日本電気技術規格委員会 第2回 溶接専門部会 議事要旨

1. 日時：平成27年12月10日（木） 13:30～16:00
2. 場所：一般財団法人 発電設備技術検査協会 本部 E・F会議室
3. 出席者（順不同、敬称略）  
部会長：野本（東京大学名誉教授）  
部会長代理：小溝（大阪大学名誉教授）  
委員：飯田（東京電力）、長尾（中部電力）、井上（関西電力）、青木（IHI）、  
原田（東芝）、逢澤（MHPS）、鶴崎（中田代理、MHPS）、小川（新日鐵住金）  
角（JFE スチール）、山下（神戸製鋼）、五代儀（火力原子力発電技術協会）、  
海老沢（日本電気協会）、石出（日本溶接協会）  
常時参加者：高橋（METI）  
傍聴者：本多（電気事業連合会）  
検討会幹事：井ノ川（東京電力）、高須（中部電力）  
事務局：佐藤、大石、長谷川
4. 配付資料 ☆：事前配布した資料  
WS-27-2-1 平成27年度第1回溶接専門部会 議事要旨  
WS-27-2-2 委員推薦書  
WS-27-2-3 委員名簿  
WS-27-2-4 JESC W0001「電気工作物の溶接の技術規格」の廃止  
WS-27-2-5 新JESC「発電用火力設備の溶接の施工法に関する技術規格（仮称）」  
の作成  
☆ WS-27-2-6 検討課題 WS13-01：JIS X 2305(2013)「非破壊試験技術者の資格及  
び認証」の引用  
WS-27-2-7 WS 書面投票結果と対応  
WS-27-2-8 JESC 表彰候補者の不推薦について  
WS-27-2-参1 検討課題 一覧表  
WS-27-2-参2 検討要望 一覧表  
WS-27-2-参3 規約  
資料番号無し 書面投票及び専門部会出席実績表
5. 議事概要
  - 5-1 出席者の紹介および定足数の確認  
委員、代理委員、検討会幹事及び傍聴者の出席紹介が行われるとともに、会議成立の  
定足数である13名を満たすことが確認された。  

**委員総数 19名；定足数確認時：出席 15名、欠席 4名**
  - 5-2 前回の溶接専門部会議事要旨の確認（報告事項） [資料 WS-27-2-1]  
メール審議にて承認された前回議事要旨について、事務局より内容の確認が行われた。
  - 5-3 新委員の承認（審議事項） [資料 WS-27-2-2, WS-27-2-参3]  
中田委員（MHPS）の後任として推薦された鶴崎氏（MHPS）について、溶接専門部

会規約に基づく専門性が認められ、かつ公平性が確保されることを確認後、委員就任の決議が行われた。結果は以下のとおりとなった。

**鶴崎氏の委員就任について 賛同 14名 承認**

5-4 新委員の紹介 [資料 WS-27-2-3]  
新委員である井上委員（関西電力）の紹介があった。

5-5 委員再任の承認（審議事項） [資料 WS-27-2-3、資料番号なし]  
次回の部会開催までに委嘱任期が満了となる委員の再任について決議を行った。再任の決議は部会長判断により挙手で行われた。

野本委員	賛同	14名	再任
小溝委員	賛同	14名	再任
三原委員	賛同	15名	再任
小関委員	賛同	15名	再任
原田委員	賛同	14名	再任
青木委員	賛同	14名	再任
角委員	賛同	14名	再任
小川委員	賛同	14名	再任
山下委員	賛同	14名	再任
横野委員	賛同	15名	再任

5-6 部会長の選出（審議事項） [資料 WS-27-2-3]  
次回の部会開催までに野本部会長の任期が満了することから、次期部会長の選任について、規約に基づく互選により野本部会長の再任が提案され、決議を行った。再任の決議は現部会長代理の判断により挙手で行われた。

**野本部会長 賛同 14名 再任**

また、野本部会長より次期部会長代理として、小溝委員が指名された。

5-7 常時参加者の承認（審議事項） [資料 WS-27-2-3]  
METI 電安課・野田課長補佐に代わる堀課長補佐の常時参加について決議が行われた。決議は部会長判断により挙手で行われた。

**堀課長補佐の常時参加 賛同 15名 承認**

5-8 新規検討課題について（審議事項） [資料 WS-27-2-4, 2-5]

- (1) 課題番号 WS15-01 : JESC W0001「電気工作物の溶接の技術規格」の廃止  
【概要】JESC W0001 (JAPEIC-W-W04) (2000)について、各章の内容が火技解釈や JSME 溶接規格等に編入され使われなくなったことや近年の販売実績がないことにより同規格が役割を終えたと考えられるため、廃止を提案する。

本提案について、下記の質疑応答が行われた後、決議が行われた。

Q01: 廃止の書面投票は時期を見て実施するとのことだが、何か理由はあるのか。

A01: 特別な理由はない。廃止のため、それほど急ぐ理由はないと考えている。

## JESC W0001 の廃止 賛同 15名 承認

なお、廃止の書面投票時期については、部会長と事務局に一任することとなった。

### (2) 課題番号 WS15-02: 新 JESC「発電用火力設備の溶接の施工法に関する技術規格(仮称)」の作成

【概要】 METI による技術基準の更なる性能規定化の検討が行われており、火技解釈が民間規格等を仕様規定として是認する可能性がある。この場合、例えば、JIS B 8201 が是認された場合は溶接施工法と溶接士の規定は現行の火技解釈とは異なる JIS B 8285 及び JIS Z 3801 が適用されるため混乱が予想される。これを避けるため、火技解釈をベースとする溶接施工法と溶接士に関する新たな JESC 規格を策定することを提案する。

本提案について、下記の質疑応答やコメントを踏まえて決議が行われた。

- Q02: どのような体系で新たな規格を作りこむのか。  
A02: 現状では、国からは体系について具体的な案が提示されていない。一例として、JIS B 8201 が是認された場合に JIS B 8285 の代わりの民間規格として新 JESC 規格を取り入れるイメージを想定している。
- Q03: 担保すべき性能要件の明確化とあるが、その点に関する具体的なイメージがあれば議論しやすいのではないか。  
A03: 担保すべき性能要件については、WSとは別の場で議論されている。その議論も参考にしつつ新 JESC 規格の内容を検討する考えである。
- Q04: 材料のグルーピングの観点からの議論も必要ではないか。  
A04: 新 JESC 規格が成立した場合には議論が必要になると考えている。
- Q05: JESC W0001 の一部を残して作ることはしないのか。  
A05: 新たに規格を作る方が作りやすい。内容が古く、しかも火力、原子力、補修規定が複雑に作り込まれている JESC W0001 を残すことは考えていない。
- Q06: バイオマス発電等も取り込んで規格を作るのか。  
A06: 方向性についてはご指摘のとおりだが、それらは内発協や JEMA 等で検討されている。種類が多いため、JESC 等で検討された内容を順次取り込む体制作りが必要と考えている。
- Q07: 民間規格で製造した例はなく、保安水準が見えない。例えば火技解釈と JSME 規格とで相違点分かるような整理ができないか。  
A07: 火技解釈も JSME 規格も、基本はルール全体を 1 パッケージで適用するという思想である。現在、日本機械学会の協力を得て、火技解釈と JSME 規格の対照一覧表の作成及びその公表方法を検討している。
- C08: 安全に係る基本的な部分を規制側が審査し、それ以外は設置者が責任を負うことになっているが、性能規定化により民間規格を適用する場合も、それらの範囲を明確にしてほしい。
- C09: 民間規格の組み合わせにより、火技解釈と同等の保安レベルを確保する方法もあるため、検討してほしい。
- C10: 選択肢が広がる点で新たな民間規格を作ることは良いことと考えるが、施工法は各社の財産であるので、取得済みの施工法については新規格への移行後も適用できるようにしてほしい。
- C11: 国としては社会情勢にあった性能規定化を検討している。例えば、火技解釈を用いて逐条での工事計画審査を行っているが、今後、新たな民間規格を取り入れる際に、改めて工事計画の審査で国が確認すべき事項の整理や、民間規格の

最新版を迅速に取り込む仕組みの構築、といった事項について検討していきたいと考えている。

### 新 JESC 規格の作成 賛同 15 名 承認

なお、新 JESC 規格の作成作業が膨大になることが予想されるため、一部の課題を除き、検討を中断することが説明され、了承された。

#### 5-9 検討課題の書面投票移行のための審議（審議事項） [資料 WS-27-2-6]

- (1) 課題番号 WS13-01 : JIS Z 2305(2013)「非破壊試験技術者の資格及び認証」の引用  
【概要】ISO 9712(2012)の一部を修正した JIS Z 2305 の 2013 年版が発行された。技術的な変更がないと判断されることから、2013 年版を火技解釈に追加する。

本提案について、下記の質疑応答の後、書面投票への移行のための決議が行われた。

- Q12: JIS Z 2305(2013)では新たに AE 等の資格が追加されているが、それらも火技解釈に含めるのか。  
A12: AE 等は含めない。火技解釈が要求しているのは RT、PT、MT、UT の資格のみである。  
Q13: 3 割程度難易度がアップするとはどういう意味か。  
A13: 合格点が 80 点から 70 点に下がったが、実技試験の試験体数が増えていることを示すために用いた表現である。さらに、更新の場合、これまでは筆記試験でよかったものが実技試験へと変更されており、全体的に難易度は 5 割程度上がっているため、少なくとも現行と同水準かそれ以上という意味である。

### 書面投票への移行 賛同 15 名 承認

#### 5-10 WS 書面投票結果と対応について [資料 WS-27-2-7]

事務局から資料に基づき、前回部会にて書面投票へ移行した提案課題である JESC/WS0067「溶接士技能更新における耐圧代替試験について」に対する投票結果と対応に関する説明があった。

同課題についてはコメントが 1 件付されたが、その後の対応により賛成の回答が得られ、可決された。

#### 5-11 JESC 表彰候補者の不推薦について [資料 WS-27-2-8]

事務局から、資料に基づき JESC 功績賞の推薦についての説明があった。本年度は、表彰の対象期間に溶接専門部会からの提案に対する JESC での審議・承認が行われておらず表彰の対象とはならないため、JESC へは推薦しないことが報告され了承された。

#### 5-12 その他

次回部会の日時は下記を候補日とし、事務局から別途連絡することとした。

平成 28 年 6 月 17 日 (金)、24 日 (金)、15 日 (水)、22 日 (水)

以上